

皆様、おはようございます。いよいよ10月に入り今年もあと3ヶ月となりました。肌寒いような天候になりました。台風が過ぎ青空の日々を過ごしております。先週の29日、引退教師の小川喜止男先生が天に召されました。昨日所沢で葬儀が行われました。ご遺族の皆様方への神様の慰めをお祈りください。さて使徒言行録ではステファノの説教が続いております。

先週の箇所ではモーセのことが語られていました。実に数奇な運命をたどったモーセの出来事が記してあります。

ヨセフのもと、エジプトの国が救われ、そしてヨセフの家族は大歓迎で迎えられました。ヨセフのことを知らない別の王がエジプトの支配者になった時、イスラエルの同胞を欺き先祖を虐待して乳飲み子を捨てさせ、生かしておけないようにしました。そのような時、まさにその時にモーセが生まれました。

神様の救い導き手として生まれたモーセは3ヶ月の間父の家で育てられましたが、その後捨てられたのファラオの王女が拾い上げ、自分の子として育てました。何という不思議な出来事でしょうか。これにはすべて神様のご計画がありました。不思議な不思議な導きがありました。死ぬほかなかったこの赤ちゃんを神様は助け出してくださり、赤子を皆殺しに殺そうとしていたその王の娘の所で育てて下さろうとは。そしてその国から奴隷の民を解放するために立てられるとは。

そのように、モーセには大きな目的と使命が担わされました。モーセはエジプト人のあらゆる教育を受け素晴らしい話や行いをする者となりました。

40歳になった時モーセは兄弟であるイスラエルの子らを助けようと思い立ちました。それで同胞イスラエル人の1人が虐待されているのを見てこれを助けエジプト人を打ち殺し、そうして仕返しをして仇を打ちました。このことは彼の短慮でありました。モーセは自分の手を通して神が兄弟たちを救おうとしておられることを彼らが理解してくれると思いましたが、しかしイスラエル人たちは理解しませんでした。ここにまた民のかたくなさがあります。

神様のお遣わしになった導き手を、それと信じることができなかった彼らの頑固さもここにはありました。

モーセがイスラエル人同士が互いに争っているのを見て仲直りさせようとしたが、突き飛ばして誰がお前を我々の指導者や裁判官にしたのか、昨日エジプト人を殺したように私を殺そうと言うのかとモーセにいう始末です。せっかく同胞のために思い立ったのに。モーセはエジプト人の殺害にあたってうわさが大きくなって自分の身が危ないと悟り、先の言葉を聞いて逃げ出しました。ミディアン地方に身を寄せている時祭司レウエルの娘をめとることになりました。それから長い永井年月が経ちました。エジプトにいたイスラエル人はずっと相変わらずその間労働のゆえにうめき叫びました。

2:23 それから長い年月がたち、エジプト王は死んだ。その間イスラエルの人々は労働のゆえにうめき、叫んだ。労働のゆえに助けを求める彼らの叫び声は神に届いた。

2:24 神はその嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。

2:25 神はイスラエルの人々を顧み、御心に留められた。

と出エジプト記2章の終わりのところに書いてあります。

神はその嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされました。

そして今日の話は30節にありますように、40年経った時とあります。

モーセが思い立ち、立ち上がってから40年もたっていたのです。あれから40年。あまりに長い年月が過ぎましたモーセが短慮をしなければどうであっただろうかと、あの人々の苦しみはその後どうなったか、しみじみと食ひ、祈るミディアンの浪人生活だったのではないのでしょうか。

そして、見ていた同胞たちも同胞たちで、この人こそ私たちの救いのために導かれた方と信じ受け入れていたらどうなっていたのでしょうか。40年の間も苦しみ続けることはなかったのではないかと思ったりいたします。

しかし、あれから40年との、あまりに長い時間が経過してしまいました。すぐ目の前に救いが来ているのにそれを取り逃して40年経ってしまったと言う事これはあまりに切ない日々でありますけれども、それもこれもまた神様の導きの時であったのかもしれない。

詩篇 119:68 あなたは善なる方、すべてを善とする方。あなたの掟を教えてください。

119:69 傲慢な者は偽りの薬を塗ろうとしますが／わたしは心を尽くしてあなたの命令を守ります。

119:70 彼らの心は脂肪に閉ざされています。わたしはあなたの律法を楽しみます。

119:71 卑しめられたのはわたしのために良いことでした。わたしはあなたの掟を学ぶようになりました。

119:72 あなたの口から出る律法はわたしにとって／幾千の金銀にまさる恵みです。

出エジプト記 2:23 それから長い年月がたち、エジプト王は死んだ。その間イスラエルの人々は労働のゆえにうめき、叫んだ。労働のゆえに助けを求める彼らの叫び声は神に届いた。

2:24 神はその嘆きを聞き、アブラハム、イサク、ヤコブとの契約を思い起こされた。

2:25 神はイスラエルの人々を顧み、御心に留められた。

使徒 7:34 わたしは、エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。』

民の苦しみが増し加わる中であって神様に叫ぶ声はいよいよ強くなったことでしょう。思い立って立ち上がったモーセは、かつては自分が思い立ったと、そういう意味合いが強かったのかもしれませんが、40年の祈りの中で、自分の力ではない、自分の思いではない、自分の衝動的な感情ではない、神様によって立てられ遣わされるその時を待つ祈りをささげたことでしょう。

40年経った時、シナイ山に近い荒れ野において芝の燃える炎の中で、主がモーセの前に現れました。そこは主がおっしゃる通り、「聖なる土地」でした。モーセはこの光景を見て驚きました。もっとよく見ようとして近づくと主の声が聞こえました。

私はあなたの先祖の神アブラハム、イサク、ヤコブの神である。モーセは恐れおののいてそれ以上みようとほしませんでしたその時私がこうせいになりました履物を脱げあなたの立っているところは聖なる土地である。『履物を脱げ。あなたの立っている所は聖なる土地である。』と。

7:34 わたしは、エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。』

神様はご自身の民の不幸を確かに見、その嘆きを確かに聞いていて下さいました。そして救うために降ってきてくださるのです。

そのようにモーセを再びエジプトに遣わされる神様は、この御言葉の通り、神様はイエス・キリストを人として私たちの世界に降して、贖いをなし、私たちをも救ってくださいました。

ついにその時がやってきました神様はわが民の不幸を確かに見続けておられました。そしてその嘆きを確かに聞き続けておられました。そして今時が満ち、彼らを救うために降って来られるのです。

そしてモーセをエジプトに遣わされます。それにしても40年と言うのはとても長い年月でした。モーセもあるいは自分を責め祈る日々であったと思いま

す。逃げていった地にあつて祭司のところにとどり着き、祈りの日々であったと思います。神様が自らを救いとして遣わしてくださったのにそのチャンスを用いることができずに、悔い祈る日々でありそして民は民でその神の導き手であるモーセを受け入れなかった、拒絶したことによって支払わなければならない40年であったかもしれません。

それにしてもあまりに長い40年という年であったのではないかと思います。神様の時は私たちに計り知れないものがあります。神のなさる事は全て時になつて美しいと、コヘレト、伝道の書をご紹介いたしましたけども、まさにそういう御計画、ローマ書の8章にもありますけども8:28 神を愛する者たち、つまり、御計画に従って召された者たちには、万事が益となるように共に働くということ、わたしたちは知っています。とのようなことが起こりました。

結局のところ人には計り知れないことがたくさんありますけれども、そしてこの時が遅いとか早いとか、なぜ私にとか、なぜ今なぜこんなことがあると思うことも多いのですけれども、神様は最善の時を見計らっておられる方です。

40年経ったとき、これが神様の時満ちる時でした。神様はモーセをずっとそのままミディアンで羊飼いをさせておくばかりではありませんでした。神様にはモーセを用いるご計画がありました。

そして労働のゆえに助けを求める彼らの叫び声は、実に40年経って神様に届きました。神様はその嘆きを聞き、アブラハムイサクヤコブとの契約を思い起こし、イスラエルの人々を御心に留めてくださいます。

私たちもあきらめることなく祈り続け、神様に願い続ける大切さを学びます。お約束に従って神様どうか私たちをあわれんでくださいと助けを求め叫び声をあげる、その祈りの大切さを教えられます。

40年経ったとき神様はついにモーセにお現われになりました。「履物を脱げ。あなたが立っているところは聖なる土地である。私はエジプトにいる私の民の不幸を確かに見届け、またその嘆きを聞いたので彼らを救うために降ってきたさあ今あなたはエジプトに遣わす。」ついに神様がその時としてくださったのです。

この時はモーセが思いついて立ち上がって、彼の思いによって人に仕返しをしたり仇討ちをしたりする行いではなく、ついに神様が救うために降ってきて、さあ今あなたをエジプトに遣わそうという、まさにその時がやってきたのです。神様はご自身の民の不幸を確かに見届けていらっしゃいます。私の嘆きを聞いておられます。見聞きしておられるのです。私たちの心の嘆きそして涙、私たちの不幸、辛い出来事を神様は全て見聞きしておられます。そして時至って救うために降ってきてくださるお方です。感謝したいと思います。神に

知られない私たちの状況はないんだと言うことを私たちは確認したいと思えます。むしろ私たちが行っているところは神様の面前であり、「聖なる土地」なのです。

7:35 人々が、『だれが、お前を指導者や裁判官にしたのか』と言って拒んだこのモーセを、神は柴の中に現れた天使の手を通して、指導者また解放者としてお遣わしになったのです。

7:36 この人がエジプトの地でも紅海でも、また四十年の間、荒れ野でも、不思議な業とするしを行って人々を導き出しました。

7:37 このモーセがまた、イスラエルの子らにこう言いました。『神は、あなたがたの兄弟の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。』

7:38 この人が荒れ野の集会において、シナイ山で彼に語りかけた天使とわたしたちの先祖との間に立って、命の言葉を受け、わたしたちに伝えてくれたのです。

これはしかし、誰がお前を指導者や裁判官にしたのかと言って拒んだその人々への遣わされる出来事でした。しかし神様は神様ご自身が彼を指導者として解放者としてお遣わしになるその時だったのです。

35 節 36 節 37 節 38 節には「このモーセ」ですとか、「この人が」と、何度にもわたって主がモーセを読んで、この人こそが神に遣わされた人だ、神に立てられた人なんだということがはっきり記しています。

「不思議なわざとするし」という言葉がまたこの使徒言行録のキーワードでもあります。使徒たちと共に神様が居られて不思議なわざとするしと伴わせて派遣しておられるということ、これが神様によって遣わされているということの証明です。神様はその僕らご自身の使命のため遣わしそして指導者解放者とさせる不思議なわざとするしを行って人々導き出されるお方です。

7:37 このモーセがまた、イスラエルの子らにこう言いました。『神は、あなたがたの兄弟の中から、わたしのような預言者をあなたがたのために立てられる。』

モーセはイスラエルの子らに、あなた方の兄弟の中から主は私のような預言者をあなた方のために立てられると話しましたが、それはイエス様のことを現していました。

そして兄弟の中から私のような預言者はあなた方のために立てられる。7:34 わたしは、エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。』と派遣されているのは、キリストの弟子である私たちです。

私たちもまた兄弟の中から預言者イエスキリストを証する証し人として立てられているのです。

イエス様もまた、人々から拒絶され、誰がお前を指導者や裁判官したのかと見捨てられましたが、神の手がイエス様と共にあってイエス様は困難を乗り越えて死んでも復活なさいました。

民は無知蒙昧にイエス様を拒みそして十字架にかけて殺してしまいましたが、この方こそ私たちをモーセがエジプトの労働の苦役から救出したように私たちを罪から、死から、災いから、呪いから、病から救い出すために十字架について贖いを出してくださったイエス・キリストです。

この方がやがて後に立てられると言う事モーセはすでに予言していました。神様はご自身から離れそして正しい行いをした正しい判断をすることができなくなってしまった人間のその不幸を確かに見届け、その嘆きを聞いて下さり、救うために降って来られる方です。

7:38 この人が荒れ野の集会において、シナイ山で彼に語りかけた天使とわたしたちの先祖との間に立って、命の言葉を受け、わたしたちに伝えてくれたのです。

このイエス様、「命の言葉」であるイエス様を、私たちもお伝えしたいと願います。

エジプトにいるわたしの民の不幸を確かに見届け、また、その嘆きを聞いたので、彼らを救うために降って来た。さあ、今あなたをエジプトに遣わそう。』

神の聖なる土地できよめられ、強められ、そして私たちは苦しみの土地、エジプトへと派遣され、命の言葉を語り、罪からの解放と赦しをお伝えしたいと願うのです。